

ヒヤリ・ハット事例

社団法人千葉県産業廃棄物協会

外注作業その他

24. 11. 20までの回答分

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
1	得意先工場	保留槽内高圧洗浄開始時	洗浄ノズルを固定する前に噴射し、ホース先端が暴れ急いで停止した。	作業開始及び次動作の際は声がけと合図の徹底でおこなう。	○				
2	印西市	側溝清掃中	蓋閉時、手を滑らせ蓋を落とした。	蓋に泥がついていたため、手を滑らせたと思われるため、泥を洗いしっかりと蓋を持ち手元注意でヨシ。	○				
3	側溝清掃作業現場	側溝清掃中	パール等の作業に使用する道具に足をつまづかせて、転倒しそうになった。	使った道具は元にあった場所に戻し、整理整頓をきちんとする。	○		○		
4	商業施設	積み込み中	1人で重い荷物を持ち、階段を降りる時足を踏み外しそうになった。	重い荷物を運ぶ時、2人で声を掛け合いゆっくり階段を降りる。	○				
5	側溝作業現場	側溝清掃作業中	道具につまづいて転倒しそうになった。	整理整頓の徹底、使い終わった道具は必ず元に戻す。	○		○		
6	商業施設	機材運搬中	機材を高く積みすぎた為、倒しそうになった。	荷物を運ぶ時は高く積みすぎず、小分け運搬が大事。	○				
7	市川市側溝	大型車両をバック誘導中	バック誘導し停車指示したが、運転手が窓を開けていなかった為に、停車が遅れてしまった。	バック時には後方確認、移動時は窓を開けて誘導者を意識し確認の上でバック移動を行う。誘導者を意識し運転手が確認できる位置で誘導を行う。		○			
8	国道357号線の合流部	大型車の運転をしている時	車線合流時にミラーでは確認したが見えなく、合流車線の車とぶつかりそうになった。	ミラーだけでは見えない部分があるので、目視で確認。	○				
9	取引先	グリストラップ清掃時	移動しようとしたところ、養生シートと共に足を滑らせてしまった。	養生シートには極力乗らぬ様に。	○				
10	取引先	貯水槽清掃作業	RC水槽水張りの際に蓋を開けっ放しにしている為危険と判断し、ブルーシートを被せたが、それがトラップとなり、落ちそうになった。	ブルーシートではなく、カラーコーンとコーンバーで立ち入り制限をすれば良かった。	○		○		
11	市川市八幡駅南口付近	交差点内で転回中(信号無し)	車両が転回中に普通に車両の後方を通ったりするので、巻き込む可能性がある。	スイーパーの前後に誘導員を置いて車両全体を注意して転回させています。	○				
12	商業施設	清掃作業時 水槽、水抜き作業中	休憩時、マンホールの蓋を閉めずに休憩に行きそうになった。マンホールの周りには、カラーコーンで囲ってはいしたが、通行人が多く、落下事故がなく幸いであった。	マンホール開放時は必ず監視員を設け、休憩等でマンホールから離れる時は必ず蓋を閉めた事を指差し確認をする。	○		○		

収集運搬

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
1	交差点付近	社用車にて移動中	交差点ダンプ車の真後ろで信号待ちをしていた時、右手からの大型左折車の進入に合わせて、前車がいきなりバックをしてきたため、当方追突を避けるためバックをして難を逃れたが、その瞬間、後方を確認せずにバックしていた事に気づきハットした。	大型車もしくはコンテナ車等後方の視界が悪い車の後に続く場合は、車間を開ける又は真後ろに付かない等の工夫が必要。警笛を鳴らすなり当方の所在を知らせる。周囲の安全を確認してからバック等車輛移動を行う。		○			
2	高速道路上	収集運搬車両を運転中	走行中、コンテナシートの留めゴムが3本切れ、積荷が落ちそうになった。路肩に車両を止め、ゴムを交換した。	使用する本人を含め、作業に携わる従業員に使用部材の劣化等を確認させ、異常が認められたら即交換する。	○		○		
3	横断歩道がある市街の交差点	交差点において前車に続き左折待ち	横断歩道の信号が赤にも関わらず、自転車が横断歩道上にいきなり現れ、かつ猛スピードで自車の前方を横切って行った。	横断歩道がある交差点内では右左折時、必ず一時停止を行い、安全確認を徹底し最徐行を心掛ける。		○			
4	高速道路出口付近	収集運搬車両を運転移動中	高速道路を下りる際、出口の道路が渋滞していたので減速しようとしたが、荷物の重量がありブレーキが効かずハットした。	法定速度を順守し前方確認をおろそかにせず、積載重量を加味して早めのブレーキを行う。	○		○		
5	原木インターチェンジ付近	自動車で行走中	片側二車線道路の右側車線を走行中、左側車線を走行してきた乗用車が右カーブに突入した際、右側車線に大きく膨らみ接触しそうになった。	並行して走行せず、まわりの状況を把握してスピードを出さずに安全運転に努める。		○			
6	松戸市取引先店舗	自動車運転中方向転換するために、バックをしている時	通行人が死角から出てきた。	一度降りて、これから来そうな人などを十分に確認して、ミラー、モーター、目視にて確認しながら、スローバックする。		○			
7	浦安市舞浜(オリエンタルランド入口付近)	自動車走行中(40km)	前車が突然ウインカーも出さずに回転した。ナンバーを見たら福島ナンバーで、ディズニーランドに行く予定だと思い、回りを見渡しながらの走行をしていた。	時期が夏休み期間のため、日ごろから慣れていない道路を走行している。あらかじめ他県ナンバーを見たら、常に注意した意識をもって運転を心がける。		○			
8	市川市平田	自動車で行進走行中	右側一方通行の一時停止車輛の脇から、一時停止無視の自転車が飛び出てきた。	接触は回避できたが、今後も「かもしれない運転」を心がける。		○			
9	市川市本八幡	作業用車両を運転している際	信号機が設置されている交差点において、右折する際、横断歩道の手前で歩行者が携帯を操作し、立ち止まっていたので、同人の動静を注視しながら、右折を開始し、横断歩道を通過するところで、この歩行者が歩行者信号の点滅に気づき、周りを見ず、猛ダッシュで横断したため、直ちにブレーキを踏んで、横断歩道の手前で停車、接触はしなかったが危険を感じた。	このような場合は、必ず横断歩道の手前で停車、横断歩道上等の安全を確認したのち、通過する。安全に通過する為には、事前に対向車や歩行者、また進行する方向の安全を良く確認しておくことが大切だと思う。また、横断歩道を通過後もバックモニター及びサイドミラーで、通過した歩道の状況を確認できる心の余裕が必要だと思う。		○			
10	国道357号線・二俣合流付近	自動車で行進二車線を走行しているとき(右側を走行中)	左からの合流で、トレーラーと軽自動車が合流して来た際に、トレーラーの後ろを走行していた軽自動車が、自車が走行しているにもかかわらず、しっかりと確認もせず、一番右側車線に合流して来て、側面衝突されそうになった。	このように無理に合流して来る車を良く見かける。自分は合流して来る車に目を向け予測して減速しているが、無理やり運転の人に、もっと注意して走行していきたいと思う。高速の出口も同様である。		○			

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
11	国道357号線・舞浜交差点	自動車でも千鳥方面から右折でR357千葉方面へ向かうとき	自車が右折車線から右折しながら、交差点内に入った時に、左側直進車線からバスが強引に右折してきて、無理に自車の前に入ってきた。	右折でも左側後方に注意する。		○			
12	市川市田尻	自動車運転中、信号が赤から青に変わった時	少し見通しの悪いT字路で、信号が赤から青になり発進をした所、右側から信号無視の車が物凄いスピードで走っていった。	このT字路は特に見通しが悪く危険だと思っていた。「かもしれない運転」の徹底や信号が変わって直ぐに発進するのではなく、2～3秒たってから発進した事が事故防止につながった。特にこれからも市街地での運転には回りの状況をしっかりと確認して運転する事。		○			
13	国道357号線・市川大橋付近	自動車でも走行中	左側車線を走行中に中央車線を走行していた乗用車(初心者マーク)が、突然速度を上げずに前方に割り込んできた為、接触しそうになった。	車間距離を充分とる。常に周囲に注意し、不審な車がいなか確認する。不審な車の近くを走行しない。(バイクのすり抜けにも注意)		○			
14	木下街道・六実付近	自動車運転中	ほぼ等間隔の車列で走行中、左側のコンビニの駐車場から、確認もせずに車道に出てきた車両にパニックブレーキで回避。	商業施設等の出入口付近では、車の動きに注意をして「かもしれない運転」をする。		○			
15	首都高速4号線	自車がETCレーンに入ろうとしたとき	右隣のレーンの一般車が急にこちらのレーンに入ってきた。	ETCレーンに進入する際は20km/hに減速するのが基本だが、左右からの割り込車にも注意。		○			
16	環状8号線内回り・田園調布付近	自動車を運転している時、片側3車線の中央を走行、赤信号の為、前方走行車より順次減速中	自車と前車の車間がそれほど無いにも関わらず、左車線から強引に割り込んできた車両あり。かなり強くブレーキを踏み難を逃れたが、後方を確認する間もなく、追突されていた可能性もあった。仮に右側からバイク等がすり抜けてきていたとしたら、そちらに気をとられ、ブレーキが遅れ、割り込み車両に接触していたことも考えられた。	考えられない動きをする車両もある。もしかしたら…の意識を常に持ち、回りに気を配りながら運転する。スピードを出し過ぎない事が大切だ。		○			
17	丸ノ内ビル前交差点	自動車運転中、右側レーンより、右折しようとしたとき	対向左側車線にハザードランプを点灯して停車していたワンボックス車が、ハザードランプを点灯したまま、急発進して交差点内に進入してきて、右折をそのまま行っていたら事故になりそうな状況だった。	対向車が完全に停止している状況でも、動くかもしれない意識をもって、一呼吸おいて右折を開始する。ゆとりを持つ事が大事と考える。		○			
18	東京都葛飾区細田	自動車運転中、せまい道から、一時停止を行い、左折しているとき	前方、右側を走行していた自転車が、急に前を横断(左側より右側へ車線変更)してきてぶつかりそうになった。(相手自転車はヘッドホンで音楽を聞いていた感じだった。)	自転車、歩行者はどんな行動をするかわからないので「かもしれない運転」を心がけて運転する。		○			
19	東京都中央区日本橋人形町	自動車でも一方通行を走行中	車道左側を走行中の自転車が、急に自車の前を横切った。	歩行者や自転車は、急にどんな動きをするかわからないので、近くを走行する時は、速度を落としていつでも止まれる様に走行する。		○			
20	東京都文京区順天堂前交差点	自動車運転中信号待ちで青に変わった時	右車線にいた乗用車がウイカーをつけずに、左車線の自車の前に進路変更してきた。	信号が青に変わってもすぐに走行せず、一呼吸おいて走行したり、回りの状況をよく確認する。		○			

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
21	湾岸道路新木場交差点	自動車で交差点を通過中	前方の車が黄色信号に変わった時に、急に停止したので追突しそうになった。	車間距離を十分に取り、回りの車がどんな動きをするか予測しながら運転する。		○			
22	関越自動車道	自動車運転中 片側3車線の一番左側の車線より、中央車線へ進路を変更する際	一番右側の車線を走行していた乗用車が、ウィンカーを出さずに中央車線へ進路変更してきた為、側面があたりそうになった。	進路変更する際には、ウィンカーも出さずに進路変更する車があるので、周辺の車は常に進路変更してくるかもしれないと思い、確認後、慎重に進路変更する。		○			
23	国道140号線	大型アームローラーで走行中	二車線道路の右車線を走行中に交差点で右折混みしていたので、左車線に進路変更しようとし、ミラーで見たところ、後方から乗用車が来ていたので、乗用車が追い越してから車線変更したところ、車の後ろについたところ、急にウィンカーも出さずに、その道沿いにあったホームセンターに入っていく、危うく乗用車に突っ込みそうになった。	乗用車の動きや、周りの状況などの把握ができていなかった事。なにより「かもしれない運転」ができていなかった事が原因だと思う。これらの事を肝に命じて運転する。		○			
24	久喜インター方面3号線	片側1車線の道路を3tパッカーで久喜インターに向かう途中	自分の前の車が走行中、左側にタクシーが乗客を降ろし、親がタクシー料金を払っている途中、反対側に祖母がいて手をあげたため、子供が親の静止を聞かず、タクシーの前部を横切り、前車の子供と衝突しそうになった。	人事でなく、車が停止している横を通過する時は、自転車とか人とか横切ると思い、絶対、徐行、停止を必ずして確認する。特に片側1車線の道路では注意する。		○			
25	緑園都市付近道路	自動車で通勤途中	交差点停止中から信号が変わり、発車時に無灯の自転車が右側から追い越しをした。谷間の下りきった信号ということもあって、自転車のスピードが出ていた為ヒヤリとした。	未だ暗く交通量も少なかったので、安心して運転していたが、いつの時も周りの状況に樹と配っていかなくてはいけない。		○			

中間処理

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
1	選別・破砕棟	場内清掃作業中	破砕後の埋立物保管施設までのベルトコンベアライン外にほこりが積もっていたので、安全柵を乗り越えて不安定な足場で作業をしていたところ、足を滑らせて転落しそうになった。	いかなる時も安全柵を越えないように標識を設置するとともに、二人以上で作業を行うこととする。	○		○		
2	工場敷地内木くず仮置場	木くず選別作業中	来客者が作業場所に立ち入ったため、作業中の重機に接触しそうになった。	立入禁止区域を明確に設けて、仮囲いする。来客には付添いが寄添って目を離さない様にする。		○	○		
3	自社工場内屋外精製ガス棟	脱硫塔循環水pH計ラインを切替えようとしているとき	循環水バルブを75%位開けたところ、pH計が抜けて循環水が飛散し、胸部より下に循環水を浴びた。	予備ラインに通水する際、事前に取り付け状態を確認する作業手順とした、また、バルブを開ける際は、少しずつ開けていき漏れを確認する。	○			○	
4	自社工場内バイオ設備	排水を吸引し、排水タンクに受け入れているとき	排水タンクのレベル計が動いていないことに気づき、レベル計のワイヤーを引いたところ、上限ラインまで上がったため排水を停止してオーバーフロー寸前で止めた。	排水タンクのレベル計のワイヤーに引っ掛かりがないか作業前に確認し、排出作業時もレベル計の監視を行う。				○	

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
5	自社工場内1階道具置場	年末大掃除中に、棚の上部を清掃中	椅子に乗って掃除をしていたが、届かなかったので近くの金属製置き台の天板に乗り移ったら、天板がへこみバランスを失って床に飛び降りた。	適正な高さの脚立の使用をする。	○				
6	自社工場内階段付近	脱水機へ点検に向かう際、階段を昇っているとき	他の作業者が、ホイストクレーンで荷降しをしており、階段は吊り荷の下に入っていたため、吊り荷の真下に入ってしまった。	玉掛け作業時は、玉掛け作業者が、立入禁止措置を行うことが前提であり、全員へ周知徹底するように通達した。	○		○		
7	自社工場内	ポンプの更新工事のため二重切り札を掛けているとき	ポンプ更新工事時の二重切りのため、操作禁止札を4枚掛けたが、枚数が足りず操作室に札を取りに行き戻ると工事が開始されていた。	工事側へ二重切り完了後に、工事許可証を渡し、許可証がなければ工事が行われぬ規則とした。更に工事側も操作禁止札を掛け相互二重切り完了を確認する。		○			
8	自社工場内汚泥ろ過装置	現場周辺をパトロール中	汚泥ろ過装置のろ板から汚泥が噴出しており、停止措置をしに行った際に、噴出した汚泥が上半身に付着した。	トラブル時は、まず一呼吸おくこと、その上で無線等で操作室に連絡した後、最善の対応方法を考え行動するように指導をした。	○			○	
9	自社工場内プレス油圧室内	プレス油圧室内を点検のため西側歩廊を歩行中	配管ラックサポートにヘルメットをぶつけて、防災面に穴が開いた。	通路上で低い場所には、上部よりピンクリボンをぶら下げ注意喚起をはかる。	○		○		
10	自社工場内建屋を出た構内道路	点検作業で建屋から構内道路を横断し、屋外設備へ向かうとき	ローリーが停車していて、そのローリー前を横切ったとき、横から来た車両に気づかず轢かれそうになった。	建屋出口の一旦停止指差呼称の表示が薄くなっており、表示を掃除し見えやすくした。構内道路へ出る際の一旦停止で左右指差呼称の徹底を指導した。	○		○		
11	自社工場内水処理室内	AC200Vの電源ケーブルを中継端子に接続しようとしたとき	軽い電気ショックを受けた。電源スイッチを確認したところ電源が投入されており、操作禁止札が掛かっていた。	操作禁止札の運用方法の周知徹底と外部入場者への教育の徹底を行った。		○			
12	自社工場内、塩酸タンク付近	塩酸タンクからヒュームが発生し、漏れ箇所を確認中に	漏れ箇所を特定するため、塩酸タンクに不用意に近づいたら、ヒュームが飛んできて作業着に付着した(3mほど飛散していた)	塩酸タンクのヒュームは非常に危険であることの周知と保護具着用の徹底を指導教育した。	○			○	
13	自社工場内排水処理室	排水処理タンク上部よりオーバーフローしていたため、ポンプを停止するためタンクへ近づいた際	床面が濡れており、足が滑り転倒しそうになった(行きと戻りの往復2回とも)	オーバーフローしないシステム(レベルコントロール化)変更と、安易に床面が濡れた場所を歩かないよう指導教育を行った。	○		○	○	
14	自社工場地下フロア	地下での工事の進捗状況を確認しに行った際	携帯していたCOモニターが鳴り、300ppmであったため直ちに作業員全員に退避を命じた。全員退避し大事には至らなかった。	工事作業員全員へCOモニターを携帯させた。CO発生源を特定し、リーク対策を取った上で工事を再開した。			○		
15	自社工場内1階熱交換器	熱交換器ストレーナ交換時	踏み台から降りる際に、踏み台の足がずれ、腐食した床開口部に入り傾いて転倒しそうになった。	腐食した床開口部をステンレス板に張替えた。	○		○	○	

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
16	自社工場内1階フロア	工場内歩行中	工事で重機が入っており、重量物を吊り上げ中のとき、笛を吹く音がしており、そちらに気をとられていると、トレーラーが後退してきて轢かれそうになった。	工場内で工事が行われているときは、様々な合図が行われているため、注意が必要とし、立ち止まって状況を把握するよう指導した。	○				○
17	自社工場内台貫前	自社パッカー車で台貫待ちをしていた際	前車が動いたのので、自車を前進させた際に、工場内道路上を歩いていた社員が、自車の前を横切ろうとしたため停止し、安全通路上を歩くよう注意した。	社員への工場内規則遵守徹底を再指導した。		○			
18	バイオガスセンター受入ピット前	搬入品を受入れるためにフォークリフトに乗る際	フォークリフト上部にヘルメット上部の防災面が当たり、防災面が破損した。	フォークリフト上部の鉄枠にトラテープを貼り、作業への注意表示をした。	○		○		
19	廃棄物搬入プラットホーム西側受入扉前	雨天時、トラックがプラットホームにバックで進入したとき	受入扉に近づいた際に、タイヤがスリップし床に敷いてあった鉄板が50cmほど動いたが誘導者の反対側だったため被災はなかった。	トラック進入時は作業者は離れた位置で誘導する。鉄板はずれないようずれ防止措置をする。			○		
20	プラットホーム	ショベルローダー作業中	運転中、運搬車両(助手)がショベルローダーが動いているにも関わらず接近してきた。慌てて急ブレーキをかけた。	運転中、ショベルローダーの近くに寄らない。(運搬業者連絡済)人が近づいてきたら停止する。		○			○
21	プラットホーム	雨天ショベルローダー運転中	かき上げ作業中、スリップをして、柱に接触しそうになった。(スピードは出していない)	雨天時、急発進、急ブレーキ、急旋回はしない。床面を水切りワイパーで清掃。柱、壁近くの作業は、最徐行。	○		○		○
22	成型品エリア	カン PETボトル成型品 積み上げ作業中	足元に、PETボトル、カンが落ちていて、踏んでしまい、転倒しそうになった。	こまめに足元を清掃する。足元を注意して作業する。	○		○		
23	プラットホーム	掃き掃除中	透明なフィルムを踏んでしまい、足を滑らした。	足元に細心の注意して作業する。走らない(転倒した時、ダメージが少なくなる)	○				
24	手選別エリア	清掃中	雨天時、搬入物が濡れている状態で各コンベアが濡れて雨水が落ち床面が濡れてすべりそうになった。	コンベア周辺に雨水受け皿を設置。ウエス等で拭き取る。走らない(転倒した際、ダメージ軽減)	○		○		
25	水質分析室	分析中	CODの分析中滴定液の分注器の動きが悪く薬品をこぼしてしまった。	薬品の分注器を洗浄して動きを良くしていく。	○		○		
26	最終沈殿池	終沈清掃をしているとき	グレーチングを解放して作業するのだがグレーチングを開ける時に指が挟まれそうになった。	グレーチングは重量があるので開けるときには十分に指先にも注意を促しゆっくりと開けるようにする。	○				
27	プラットホーム	搬入車両の荷台から、びんケースをフォークリフトで荷降ろし作業しているとき。	搬入車両の作業員がトイレを利用しようとして、停車車両とフォークの間を走って横切った。 ※通行路導線は表示・確保されているが、そこを通らなかった。	搬入業者には通達(注意指導)。プラットホームトイレの使用禁止または自粛を促す。ルールに違反した業者は出入制限する。		○			

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
28	手選別室のペットボトル選別ライン	作業用踏み台に乗り、コンベア上のペットボトルを選別作業中に横へ移動した時	踏み台のギリギリに立ってしまい、踏み外しそうになってヒヤッとした。 ・選別コンベア有効寸法 約6.5m ・踏み台 約5.5m	踏み台後半部分を追加設置し長さを同一にする。 コンベア上に限界ラインを設け下を見なくてもわかるようにする。	○			○	
29	プラットホーム	重機により荷役作業をしているとき	搬入量が想定以上となり導線が狭くなったとき2台の重機が同時に同方向にバックした際、一瞬ヒヤッとした。 ※年始のため通常よりも多く搬入有り	原則導線確保が優先。指差し確認は厳守。 誘導員(監視員)を配置する。 予め想定以上の場合を予測し、作業時の導線を打ち合わせる。 導線確保が困難な場合、2台同時に動かさない。	○		○		○
30	自社プラント内	フォークリフト運転中	荷物を積んでバックで移動中、後方両サイドが死角になる場所で、急に作業員が飛び出してきたのでハッとした。	視界の悪い場所では、必ず一時停止し左右を確認する。	○	○			○
31	自社中間処理施設内	工場内にて、重機を使用して廃棄物の分別作業中	荷降ろしされた廃棄物を、重機を使用してコンテナに分別投入をする際、後方への移動時に他のコンテナに接触しそうになった。	指差し呼称の徹底。周辺の整理整頓。バック時に降車して周辺確認の徹底。	○				○
32	自社中間処理施設内	廃棄物の分別作業中	荷降ろしされた廃棄物を、重機周辺にて分別作業中、重機のバケットに接触しそうになった。	お互いの作業範囲を明確に分離する。作業・移動の際、無線機を使用して合図確認し合う。	○		○		
33	自社中間処理施設内	工場内にて、重機を使用して廃棄物の分別作業中	重機(ユンボ)旋回時に周辺のコンテナ及び建物壁面に接触しそうになった。	作業範囲内の周辺確認と整理整頓。	○		○		
34	自社中間処理施設内	工場内を重機にて移動中	床面に水溜りが出来ているのに気付かず後方へ移動した際、重機が滑って建物壁面に接触しかかった。	重機にて移動する際、降車して周囲の状況を確認する。場内床面に水やオイル溜まりがある場合には即刻ふき取る。	○		○		○
35	中間処理場施設内	搬入車両を誘導時	搬入車両をバックにて誘導中、場内通行路にパート作業員が横切って通行した。	弊社は場内が縦長で狭い為、場内作業員の通行路を決めているが、パート作業員や社員間への安全教育が徹底していなかった。今後は社員、パート全員を含めミーティングを行い、通行のルールを決め、安全に作業する。					○
36	工場施設内	バックフォーで選別作業中	バックフォーで選別作業中に突然、作業員が横切ってきた。作業員に注意したところ、無線で連絡したと言っている。しかし、バックフォー運転手には聞こえなかった。	運転手、作業員はお互いに無線で声を掛け合い、コミュニケーションを取り、未然に事故を防止する。 運転手から応答があるまで通行しないようにする。 バックフォー発進時は必ず、ホーンを鳴らして動き出すことを回りにアピールしてから行動すること。		○			○
37	古紙類梱包機コンベア前	ホイールローダーで古紙をかき上げ作業をしているとき	ホイールローダー運転中、鉄板上が濡れていてコンベアに落ちそうになった。	急ハンドル、急ブレーキを避けることとタイヤの摩擦状況をチェックし適時に交換する。	○		○		○
38	古紙類梱包機	エアーを使って清掃作業中	誤ってエアーガンから先端が暴れ出した。	今後はエアーガンをしっかり握り離さないようにする。また、離れてしまったときは慌てずにホースの先端を足で押えて対処する。	○				

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
39	RC入り口	通勤時	排水のグレーチングの隙間の間に自転車の前タイヤ干渉して転びそうになった。	側溝の蓋の入替を行った。	○		○		
40	ビン・缶施設構内	フォークリフト運転手が荷物運搬中に、作業員が床の掃き掃除をしていたとき	場内、狭い範囲で人とフォークリフトが作業を行っている。フォークリフトの運転手が、作業員に気がつかずバックしたところ、もう少しで、作業員の足を踏むところだった。	運転手は、必ず初心に戻り、指差し呼称を行う。 運転手、作業員はお互いに声を掛け合い、コミュニケーションをとり、未然に事故を防止する。 フォークリフト発進時は必ず、ホーンを鳴らして、動き出すことを回りにアピールしてから行動すること。	○				○
41	製品保管庫	棚卸作業実施中、ラック3段目の原料入りのフレコンが底部切れて、材料がこぼれていたのを発見する。	原料がこぼれた事によりフレコンが傾き、ラックからフレコンが落下する危険がある点。また、フレコンを直に下段で段積みだったら、上段が倒れて落下事故になりかねない点がヒヤリとした。	材料購入時に切れているフレコンを使用しないようメーカーなどに周知する。フレコンを置く(重ねる)際は、フレコンの状態を確認し、破けていたりした場合は入れ替える。			○		
42	工場内見通しの悪い交差点	フォークリフトを運転中	他のフォークリフトに衝突しそうになった。	前方を確認する前にスピードを上げてしまったので、見通しの悪い場所では必ず徐行する事を心がける。	○				○
43	光学式選別機脇	低い所に入って清掃中	近くの柱に頭を衝突させた。	低い所に入って清掃中であってもヘルメットを着帽し、上と周囲を見ながらゆっくり行動する。	○		○		
44	ドラム置き場	ドラム置き場内に転倒したドラムがあったので、起こそうとした時。	倒れたドラムと、その隣のドラムの間で、指をはさみそうになった。	ドラム操作用の治具を使用して、ドラムを操作する。 倒れたドラムを立てる際には、周囲にドラム等のない場所に移動させて行う。	○				
45	焼却炉へ供給する汚泥のホッパー	汚泥ホッパーの棚吊り除去作業中に、工業用水のホースを地上から引っ張り上げて作業していた。	ホースがホース内の水の重みで下に落ち、下にいる作業者に当たる。	定常作業であれば、ホースを地上から引き上げないで良いように、工業用水の取り口を汚泥ホッパー作業ステーション近くに設置する。 ホースの固定をより厳重に行う。 落下しても下の作業者に当たらない位置で、ホースを引き上げる。			○		
46	廃アルカリ受入場	廃アルカリをタンクローリーから、廃アルカリ受入槽に受け入れているとき。	タンクローリーからの廃アルカリの吐出圧が高かったため、ホースが蛇行するように動いた。	ホースを固定してから、受入作業を開始する。 吐出圧は徐々に上げるようにし、高くなり過ぎた場合には、タンクローリー運転手に速やかに吐出圧を下げるように指示する。 ホースの接続は十分に行い、ホースが動くことで接続が外れることのないようにする。	○				
47	廃液受入場の液回収側溝集水ピット	集水ピットに設置されている水中ポンプの電源を入れ、集水ピット中の排水を廃アルカリ受入槽へ送液しようとした時	水中ポンプに接続されているサニーホースに穴があいていて、排水が飛散し、排水を体に浴びた。	サニーホースは穴が開きやすいので、サクシオンホースなど穴の開きにくいホースに交換する。 ポンプ起動前には、ホースの接続状態、ホースの破損状況を確認する。			○		
48	設備上部で作業するために設置した脚立の上	設備上部での作業のため、脚立ののって作業し、脚立を下りようとした時	脚立のバランスが崩れ、転倒しそうになった。	高所の作業では、2m以上以下に関わらず、安全帯を着用し使用する。 使用前に脚立が安定して立つか確認する。(不安定なものは使用しない) 使用前に脚立のリベット部分に遊びがないか確認する。	○				